

犬や猫による人のアレルギー

ペットによって起こるアレルギー性疾患(喘息、鼻炎、皮膚炎)は2種類に分けて考える必要があります。

1.犬猫そのものによって起こるもの

即ち、犬や猫の唾液に含まれる成分が、アレルゲンとなるものです。体を舐めるので、毛や皮膚のふけによっても起こります。ペットを飼いながら完全に予防することは不可能に近いと考えられます。毎日丁寧なグルーミングと瀕回のシャンプーによって、ある程度は効果があると思われます。

2.犬猫のふけを食餌として繁殖するヒョウダニによって起こるもの

ヒョウダニ駆除の方法に従えば大丈夫です。

ペットの皮膚トラブル増加

最近、ペットの犬や猫の皮膚トラブルが増えている。その原因として細菌感染や、アレルギー性の皮膚炎ダニ等の寄生虫による二次的な最近の感染症などの増加があるが、トリマー歴14年の武田美雪さんは「ペット用シャンプーの合成洗剤によっても皮膚が荒れているのでは」と指摘する。

合成洗剤の弊害

インターネットやペットショップでは、ダニ・ノミ・フケ・体臭取りや子犬用、白い犬用まで様々な種類のシャンプーが販売されているが、その多くは合成洗剤で、さらに様々な添加物が入っている。

武田さんは1年ほど前から、動物病院の了解を得て、今までの合成洗剤のシャンプーやリンスを石鹼成分のものに切り替えた。日頃は使いやすいボトル入りの液体せっけんを、頑固な汚れには浴用の固形せっけんと使い分けている。

その結果、飼い主からも「かゆがらない」「ふわふわになった」「体臭が減った」「フケが減った」等の評価を得た。特に効果があったのが「脂漏症」。これは皮膚表面の脂肪分に細菌が混じって皮膚や毛がベタベタになり、嫌な臭いがでる。薬用シャンプーでもなかなか改善しなかったのが、固形せっけんを使った結果臭いがしなくなった。

すすぎは十分に

「まずは試してみて」と、武田さんは家庭でできるせっけんシャンプー方法を紹介する。

- 1.毛全体を良くブラッシングして、毛玉をとり、もつれ毛をなくす
- 2.ぬるま湯で被毛を十分に湿らせ、予洗する
- 3.せっけんシャンプー適量を手のひらで泡立てて、背中の方から毛並みにそってマッサージするように洗う。

耳先、わき、内また、足の先が特に汚れている

- 4.ぬるま湯をかけながら、根元にシャンプーが残らないよう、良く洗い流す。

洗う回数は1ヶ月に1回が目安。せっけんは洗浄力が強いので洗いすぎには注意すること。犬や猫の毛は人より繊細なので、すすぎを徹底する。またヨークシャーテリアやブードルはリンスだけで十分だが、コーギーやラブラドル・レトリバー等には毛がばさつかないようオリーブ油等で皮脂を補う等ペットの個性に合わせて工夫する。